

平成 21 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19602005  
 研究課題名（和文） 効果ある臨床遺伝教育プログラムに向けた課題調査と教材開発  
 研究課題名（英文） An investigation for tasks and development of self-study materials for effective educational programs of clinical genetics  
 研究代表者  
 渡邊 淳（WATANABE ATSUSHI）  
 日本医科大学・医学部・講師  
 研究者番号：10307952

## 研究成果の概要：

遺伝医学の著しい進歩によりわれわれの知識基盤が拡大することで社会、患者、臨床医からの遺伝医療へのニーズが高まることが予測される。今後医療の中で遺伝情報を適切に活用するために早急に検討すべき課題として、医学教育への臨床遺伝教育の導入があげられる。日本において臨床遺伝に関する教育内容は欧米型をそのまま応用することは難しく本邦独自のものを作成すべきであろうと考える。本研究では、医療職から臨床遺伝、医学教育、非医療職から生命倫理、遺伝医療に関わるさまざまな専門職により研究メンバーを構成し、臨床遺伝教育プログラム開発に向けた課題を調査、明確にした。特に学習者（医学生）が中心となる能動的に臨床遺伝教育プログラムの開発を行った。この臨床遺伝教育プログラムが本邦における医学教育の中に有効となる導入に向けた課題を明確にし、実現可能にするための検討を行った。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

## 研究分野：時限

科研費の分科・細目：医療における生命倫理

キーワード：臨床遺伝教育・遺伝学・医学教育・生命倫理

## 1. 研究開始当初の背景

医療における生命倫理の対象の大きな1つとして遺伝医療があげられる。遺伝医学の著しい進歩によりわれわれの知識基盤が拡大することで社会、患者、臨床医からの遺伝医

療へのニーズが高まることが予測される。今後医療の中で遺伝情報を適切に活用するために早急に検討すべき課題として、医学教育への臨床遺伝教育の導入があげられる。これまでに、本邦において、臨床遺伝に関する教

育内容や教育プログラムの検討はほとんど行われていない。日本において臨床遺伝に関する教育内容は欧米型をそのまま応用することは難しく本邦独自のものを作成すべきであろうと考える。

## 2. 研究の目的

本研究では、医療職から臨床遺伝、医学教育、非医療職から生命倫理、遺伝医療に関わるさまざまな専門職により研究メンバーを構成し、臨床遺伝教育プログラム開発に向けた課題を調査、明確にする。明確にした課題を基に、医学教育で位置づけられた臨床遺伝教育プログラムを立案し、効果が上昇し実現可能となる教育手法、教材開発についても検討をおこなう。

## 3. 研究の方法

本研究では、診療場面で遺伝情報を適切に活用できるため、申請2年間に能動的に学習者（医学生）が中心となる臨床遺伝教育プログラムの開発を行う。この臨床遺伝教育プログラムが本邦における医学教育の中に有効となる導入に向けた課題を明確にし、実現可能にするための検討を行うことが課題である。

## 4. 研究成果

平成19年度（1年目）は、社会や患者、医療職、担当教員、学習者が臨床遺伝教育にどのようなニーズを感じているかを調査し、臨床遺伝教育プログラムを医学教育に導入する際に生じる課題を明らかにした。平成20年度（2年目）は、平成19年度の結果を踏まえ、いつ、どのような形で臨床遺伝教育を行うか、どのような手法が良いか検討を加え、教育効果が上昇する臨床遺伝教育プログラムを検討し、教員の立場から、学習者の立場から、患者・家族の立場からみた教育目標

を作成、実践を試みた。さらに、米国の教育内容と比較し、新たな臨床遺伝内容であるオーダーメイド医療も含め検討を行った。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

1. 渡邊淳、浅野ありさ、三宅秀彦、右田真、平井幸彦、志村俊郎、島田隆：医学部における臨床遺伝教育—日本医科大学の試み—。医学教育 38: 245-250, 2007

2. Watanabe A, Shimada T The establishment of an ethics consultation system in clinical genetics Trial at the Nippon Medical School Main Hospital. Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine 2: 66-82, 2007

3. 堂園俊彦：「人間の尊厳と公序良俗——代理懐胎を手がかりとして——」『生命倫理』19号, 30-38頁, 2008

〔学会発表〕（計 5 件）

1. 堂園俊彦：科学技術振興機構主催 第6回社会技術フォーラム「ライフサイエンスの倫理とガバナンス——社会と協働する科学技術を目指して」（パネリスト），於東京国際交流館国際交流会議場，2007年11月23日。

2. Hiroataka Onishi, Hirono Ishikawa, Yasutomo Oda, Toshiro Shimura, Naomi Sugimoto, Rika Moriya, Motohumi Yoshida, Atsushi Watanabe, Ryoko Aso, ; How does increased medical knowledge affect medical communication skills?

The 13th Ottawa International Conference  
on Clinical Competence (2008.3.5)

3. 守屋 利佳、萩野 美恵子、阿部 直：患者さんから学ぶー医学部学生を対象とした患者による講演. 第40回日本医学教育学会大会 (2008.7.25) 東京 (日本医学教育会誌 39 (Suppl) 73.2008)

4. 小川 元之、守屋 利佳、阿部 直、川上 倫、糸満 盛憲、相澤 好治：医学生の学習支援の在り方ー学習支援室の設置ー. 第40回日本医学教育学会大会 (2008.7.26) 東京 (日本医学教育会誌 39 (Suppl) 141.2008)

5. 堂園俊彦：「自己決定権における「自己」と「身体」 ----生命倫理学における「人間の尊厳」の射程」, 第31回静岡大学哲学会, 於グランシップ, 2008年11月3日

[図書] (計 7 件)

1. 福嶋 義光 監／玉井 真理子 編著：遺伝医療と倫理・法・社会, メディカルドゥ, 東京, 2007

2. 堂園俊彦：第2章「義務論」赤林朗編『入門・医療倫理II』, 勁草書房, 2007

3. 渡邊淳、島田隆：血管型 Ehlers-Danlos 症候群の遺伝診療とその課題. 吉田雅幸 小笹由香 (編), 遺伝診療をとりまく社会, pp69-78, ブレーン出版, 東京, 2007

4. 玉井 真理子 編／平塚 志保 編：捨てられるいのち、利用されるいのち 胎児組織の研究利用と生命倫理 生活書院, 2009

5. 玉井 真理子：ケース10 羊水検査を受けるかどうか ケースブック 心理臨床の倫理と法 (静岡大学人文学部研究叢書) 松田 純、正木 祐史、江口 昌克編 知泉書館, 2009

6. 渡邊淳 (訳)：第3章 ヒトゲノム：遺伝子の構造と機能. 福嶋義光監訳, トンプソン & トンプソン 遺伝医学, pp27-44, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京, 2009

7. 渡邊淳：遺伝情報を診療で活用するための課題. 玉井真理子、大谷いづみ (編) 生命倫理, 有斐閣 2009 (in press)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

渡邊 淳 (WATANABE ATSUSHI)

日本医科大学・医学部・講師

研究者番号：10307952

### (2) 研究分担者

玉井 真理子 (TAMAI MARIKO)

信州大学・医学部・准教授

研究者番号：80283274

守屋 利佳 (MORIYA RIKA)

北里大学・医学部・准教授

研究者番号：80220094

堂園 俊彦 (DOUZONO TOSHIHIKO)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：90396705

### (3) 連携研究者

なし